

研修カリキュラム表（臨時的代替方法・介護職員初任者研修課程 通信）

事業者名： パルシステム生活協同組合連合会

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム(実施要綱別紙1)		実施計画			臨時的代替方法による実施内容				
講義・演習(実習)		カリキュラム名・時間数			実施内容				
1 職務の理解	6 時間				1 職務の理解	6 時間			
			通学	通信	合計		通学	通信	合計
		(1) 多様なサービスの理解	3	0	3	(1) 講義のみ	0	3	3
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	0	3	(2) 講義・演習:視聴覚教材を用い、働く現場についてグループ毎に話し合っ発表をします。	0	3	3		
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間				2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間			
			通学	通信	合計		通学	通信	合計
		(1) 同左	0	4	4	(1) 通信講習のみ	0	4	4
(2) 自立に向けた介護	1.5	3.5	5	(2) 通信講習/講義・演習:介護予防・残存機能の活用をテーマとした事例について、グループで話し合います。	0	5	5		
3 介護の基本	6 時間				3 介護の基本	6 時間			
			通学	通信	合計		通学	通信	合計
		(1) 同左	1.5	0	1.5	(1) 講義のみ	0	1.5	1.5
		(2) 同左	0	1.5	1.5	(2) 通信講習のみ	0	1.5	1.5
		(3) 同左	1.5	0	1.5	(3) 講義・演習:事故予防や感染予防等の事例に基づき、介護に関するリスクについてグループで話し合い発表をします。	0	1.5	1.5
(4) 同左	0	1.5	1.5	(4) 通信講習のみ	0	1.5	1.5		
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9 時間				4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9 時間			
			通学	通信	合計		通学	通信	合計
		(1) 同左	1.5	1.5	3	(1) 通信講習/講義・演習:介護保険制度の理解を深めるため、申請から支給決定迄のフローチャート作成の実技演習をします。	0	3	3
		(2) 同左	0	3	3	(2) 通信講習のみ	0	3	3
(3) 同左	0	3	3	(3) 通信講習のみ	0	3	3		
5 介護におけるコミュニケーション技術	6 時間				5 介護におけるコミュニケーション技術	6 時間			
			通学	通信	合計		通学	通信	合計
		(1) 同左	0	3	3	(1) 通信講習のみ	0	3	3
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3	0	3	(2) 講義・演習:言語・非言語コミュニケーション技術を学ぶため、障害者や認知症に応じた対応方法をグループで話し合います。	0	3	3		
6 老化の理解	6 時間				6 老化の理解	6 時間			
			通学	通信	合計		通学	通信	合計
		(1) 同左	3	0	3	(1) 講義・演習:例題を設定し、その例題に基づいてグループでの話し合い発表をします。	0	3	3
(2) 同左	0	3	3	(2) 通信講習のみ	0	3	3		
7 認知症の理解	6 時間				7 認知症の理解	6 時間			
			通学	通信	合計		通学	通信	合計
		(1) 同左	0	1.5	1.5	(1) 通信講習のみ	0	1.5	1.5
		(2) 同左	0	1.5	1.5	(2) 通信講習のみ	0	1.5	1.5
		(3) 同左	1.5	0	1.5	(3) 講義のみ	0	1.5	1.5
(4) 同左	1.5	0	1.5	(4) 講義・演習:認知症の家族事例を聞き、どのような支援ができるか、グループで話し合い発表をします。	0	1.5	1.5		
8 障害の理解	3 時間				8 障害の理解	3 時間			
			通学	通信	合計		通学	通信	合計
		(1) 同左	0	0.75	0.75	(1) 通信講習のみ	0	0.75	0.75
		(2) 同左	0	0.75	0.75	(2) 通信講習のみ	0	0.75	0.75
(3) 同左	1.5	0	1.5	(3) 講義・演習:障害者を持つ家族の気持ちや、家族が抱えるストレスについてグループで話し合っ発表をします。	0	1.5	1.5		
9 ところからだのしくみと生活支援技術	75 時間				9 ところからだのしくみと生活支援技術	75 時間			
					9 ところからだのしくみと生活支援技術	75 時間			
ア 基本知識の学習	10~13時間				ア 基本知識の学習	10 時間			
			通学	通信	合計		通学	通信	合計
		(1) 介護の基本的な考え方	0	2	2	(1) 通信講習のみ	0	2	2
		(2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解	0	4	4	(2) 通信講習のみ	0	4	4
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	0	4	4	(3) 通信講習のみ	0	4	4		
イ 生活支援技術の講義・演習	50~55時間				イ 生活支援技術の講義・演習	51 時間			
			通学	通信	合計		通学	通信	合計
		(4) 生活と家事	2	0	2	(4) 講義・演習:事例を示し、共に行う清掃、洗濯、調理等を演習します。	0	2	2
		(5) 快適な居住環境整備と介護	2	0	2	(5) 講義・演習:事例を示し、家庭内の事故、バリアフリー、福祉用具等を演習します。	0	2	2
		(6) 整容に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	0	7.5	(6) 講義・演習:更衣・整容等の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、更衣、整容の実技演習をします。	3.75	3.75	7.5
		(7) 移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	0	7.5	(7) 講義・演習:移動・移乗の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、移動・移乗の実技演習をします。	3.75	3.75	7.5

研修カリキュラム(実施要綱別紙1)	実施計画				臨時的代替方法による実施内容				
	カリキュラム名・時間数				実施内容				
講義・演習(実習)									
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(8) 同左	7.5	0	7.5	(8) 講義・演習:食事介助方法の基本を学び、利用者を想定し、食事介助の実技演習します。	(8) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3.75	3.75	7.5
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(9) 同左	7.5	0	7.5	(9) 講義・演習:入浴・清潔保持の介助方法の基本を学び、利用者らを想定した介助方法を考え実技演習します。	(9) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3.75	3.75	7.5
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(10) 同左	7.5	0	7.5	(10) 講義・演習:排泄介助方法の基本を学び、利用者を想定し、排泄介助の実技演習します。	(10) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3.75	3.75	7.5
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 同左	7.5	0	7.5	(11) 講義・演習:利用者を想定した安眠の工夫、環境整備の実技演習します。	(11) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3.75	3.75	7.5
(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	(12) 同左	0	2	2	(12) 通信講習のみ	(12) 通信講習のみ	0	2	2
(実習)* (50～55時間中12時間以内)	(実習)*	0		時間	(実習)*	(実習)*			
介護実習 ○時間				0					0
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間				0					0
在宅サービス提供現場見学 ○時間				0					0
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	ウ 生活支援技術演習	14 時間			ウ 生活支援技術演習	ウ 生活支援技術演習	14 時間		
		通学	通信	合計			通学	通信	合計
(13) 介護過程の基礎的理解	(13) 同左	7	0	7	(13) 講義・実技演習:片麻痺または認知症等の事例から、基本的情報の整理、アセスメント、介護計画をグループで立案し、発表します。	(13) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3.75	3.25	7
(14) 総合生活支援技術演習	(14) 同左	7	0	7	(14) 講義・実技演習:片麻痺および認知症の2事例を使って、一連の自立に向けた介護過程の展開方法を考え、実技演習します。	(14) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3.75	3.25	7
10 振り返り 4 時間	10 振り返り	4 時間			10 振り返り	10 振り返り	4 時間		
		通学	通信	合計			通学	通信	合計
(1) 振り返り	(1) 同左	2	0	2	(1) 講義・演習:研修や実習を通して学んだことを振り返り、習得したことを確認し、各自発表します。	(1) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0	2	2
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	(2) 同左	2	0	2	(2) 講義のみ	(2) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0	2	2
追加カリキュラム 時間									
計 (130 時間)	計	(130 時間)					(130 時間)		

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。